

## B—51 和装用化繊織物の風合いについて

高知大 西村 久子  
○吉川 せつ

1. 近年和装用の化繊織物が多くなり従来の絹織物等とはやや異なる独自の分野を形成しつつある。最近出回っている市販の化繊およびその複合織物を主体とし、着装上および被服整理上の問題点と関連する織物の風合いを絹または木綿と比較してその違いを検討した。また袷着の裏地としての化繊織物についてもその適否を風合いの上から検討した。

2. 風合いの因子のうち今回は特にドレープ性と摩擦係数を中心とし、物理的測定と主観テストを合わせ行なった。試料は強撚糸織物としてポリエステル、ナイロン、アセテート、レーヨン、絹の単独または複合織物、浴衣地ではポリエステル、ポリノジック、ラミー、木綿の複合織物を用い、また八掛地としてポリエステル、アセテート、絹織物を使用した。

3. 絹織物様のドレープ性を要求する袷着では化繊織

物はまだ絹に劣る点が多い。張りを要求する浴衣着では複合の仕方によって木綿より優れるものがある。被服整理上では合織には問題が少ないが、レーヨン糸のものでは処理上の問題点が多い。八掛地はドレープ係数や摩擦係数を考慮して選ぶ必要がある。